

2日 土曜

詩篇

<63> ダビデの賛歌。ダビデがユダの荒野にいたときに。

63:1 神よあなたは私の神。私はあなたを切に求めます。水のない衰え果てた乾いた地で私のたましいはあなたに渴き私の身もあなたをあえぎ求めます。

63:2 私はあなたの力と栄光を見るためにこうして聖所であなを仰ぎ見えています。

63:3 あなたの恵みはいのちにもまさるゆえ私の唇はあなたを賛美します。

63:4 それゆえ私は生きるかぎりあなたをほめたたえあなたの御名により両手を上げて祈ります。

63:5 脂肪と髓をふるまわれたかのように私のたましいは満ち足りています。喜びにあふれた唇で私の口はあなたを賛美します。

63:6 床の上であなを思い起こすとき夜もすがらあなたのことを思い巡らすときに。

63:7 まことにあなたは私の助けでした。御翼の陰で私は喜び歌います。

63:8 私のたましいはあなたにすがりあなたの右の手は私を支えてくださいます。

63:9 私のいのちを求める者どもは滅び地の深い所に行くでしょう。

63:10 彼らは剣の力に渡され狐の餌食となるのです。

63:11 しかし王は神にあつて喜び神にかけて誓う者はみな誇ります。偽りを言う者の口が封じられるからです。

「水のない、砂漠の衰え果てた乾いた地で、私のたましいは、あなたに渴き…」とあります。そのような状況では当然、水に渴いているはずですが、信



仰者は違うのです。私たちが求めるのは神御自信です。なぜなら、水も恵みも神様から来るからです。神様を求めずして、必要だけ求めても意味がないのです。解決を求めても意味がないのです。

それゆえ詩人は「あなたの恵みは、いのちにもまさる」と告白しているのです。私たちも自分のいのちが誰によって守られているのかを、常によく考えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

